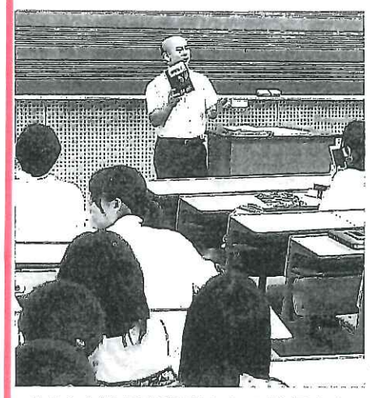
難波別院の〝まんが〟を活用

大学の授業でテキストに

難波別院で好評発売中の『まんが宗祖親鸞聖人』シリーズは、寺院・教会での開法会や学習会のテキストとして利用できることを願って発刊されている。

これまでも、別院で開催される開法会や寺院の座談会などで使用されている様子を当紙でも紹介してきたが、名古屋の同朋学園でも数年前から同まんが本を使った授業が行われている。

今月号では、同朋学園がまんがを授業に使用する試みを取り上げると共に、改めて『まんが宗祖親鸞聖人』シリーズを紹介してみた。



『まんが宗祖親鸞聖人』の単行本を紹介しながら授業を進める安藤教授

◇関心を持つ学生

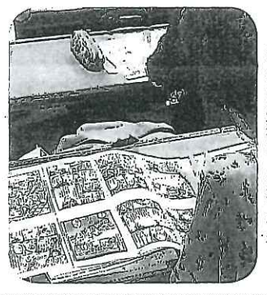
真宗大谷派の関係学校である名古屋市の同朋学園では、難波別院発刊の『まんが宗祖親鸞聖人』を用いた授業を8年ほど前から行っている。

同まんが本は、同学園内にある同朋大学の必修科目である「宗教と人間」、名古屋音楽大学の選択科目である「宗教学」で使用されており、どちらの授業でも同朋大学教授の安藤弥氏が講師を担当している。

同朋大学では、所属学科に関わらず在校する全ての1年生が親鸞聖人のご生涯を学ぶ。そこで安藤教授はまんがを使う。同大学の基本理念にあるものが浄土真宗であり、その学びの場にまんががあることで宗教に馴染みの薄い学生にも好意的に受けとめられている。

また、名古屋音楽大学は選択科目でありながら、70人を超える学生が「宗教学」を受講している。一見すると音楽大学と真宗は無縁のように思えるが、なかには真宗大谷派と関係のある学生や、子どもの頃に保育園や幼稚園で「花まつりのうた」を歌ったことがあるなどの声が聞かれ、宗祖の生涯に関心を持つ学生も多い。

それぞれの授業の中で、親鸞聖人の生涯を9回にわけて紹介する。毎回の授業で配布されるA3用紙時にわかりやすいと思いの表面に歴史的史料が記されし、裏面にまんががコピーされている。基礎知識の少ない学生でも、まんがのお陰で理解しやすく親鸞聖人を知るきっかけになっているようだ。



まんがの資料に目を通す学生

◇まんがが補足に

安藤教授に、まんがを取り入れたきっかけを聞いてみると、「まず『南御堂』新聞の紙面を見た」と、「同朋大学の別科で役立っていると語った。

今後のさらなる利用方法については「自分とは何か」という問題が、決してわかっていません。」と「人として「学ぶ」べき本質を明確に示すので、これは非常に興味深いです。確かに岡潔は仏教を深く信仰していましたが、科学者です。その彼が「自分とは何か」という問題が根本であると明示するのです。

この岡潔の指摘は、実は教育の根本問題なのです。もっと言えば、あらゆる学問は「自分とは何か」そして「真理の探究」へと繋がっているのです。そのような「学び方を学ぶ」ことが本当の教育実践なのでしょう。そして「自分とは何か」という課題は、人と人が「共に生きること」を学ぶことであり、人として、自分自身の「あり方を学ぶ」ことなのでしょう。

ご紹介した対談にもあるように、時代を超えた教育的課題が受け継がれており、そのことへの大人そして教師自身が真剣に向き合い、実践していかなければならないと思うのです。

聞法会や学習会にまんが親鸞聖人を

特別割引で販売中

当紙で連載された『まんが宗祖親鸞聖人』(絵・今西精二／企画・『南御堂』新聞編集部)シリーズが、単行本化されて7年が経つが、未だに人気が衰えず寺院・門徒から好評を得ている。

同まんが本は、宗祖親鸞聖人750回御遠忌を機縁として、親鸞聖人のご生涯に触れ、真宗のみ教えに出遇っていくことを願いに発刊。

第1巻では、比叡山での求道の末に法然上人と出遇っていった若き日の聖人の姿が描かれている。第2巻では、「興福寺奏状」を発端とした専修念仏弾圧から聖人が流罪を受けて越後での生活が始まるまでが。そして第3巻では関東での教化伝道と『教行信証』の撰述に力を注ぐ中での帰洛後の聖人のご苦心が描かれている。

各巻には、登場人物紹介・語句マメ知識・原典資料集・親鸞聖人ご旧跡地紹介などが収録。また、企画に助言をいただいた諸先生方の寄稿原稿(廣瀬杲師、寺川俊昭氏、本多弘之氏ほか)も収録し、寺院・教会の聞法会をはじめ学習会の資料やテキストとして幅広く活用できる内容となる。

また、2011年1月から2012年3月号までの全14話にわたって連載した『まんが伝承の中の親鸞聖人』も「伝承編」として好評発売中。

まんが親鸞聖人の伝承編

頒価：第1巻(900円・税別)、第2巻(1200円・税別)、第3巻(1200円・税別)、伝承編(900円・税別)、特別割引として3巻セット(第1巻～第3巻)は3000円(税別)、4巻セットは3700円(税別)で発売中。お問合せは管理部(06・6225・5822)まで。

これからの子どもの育ちと学びを考える

冨岡 量秀
(大谷大学短期大学部教授)

⑤子どもの育ちと学びへの願い(4)

自分自身の「あり方を学ぶ」

前回は、「ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)」の提示している「これからの」4つの学び方・やり方を学ぶ、学び方を学ぶ、共に生きることを学ぶ、あり方を学ぶ」を取り上げました。そして現代の私たちの社会では、「やり方を学ぶ」にのみ価値を見出していませんか?という問題点を提示しました。この偏りは、子どもの「学び」をいびつにさせてしまいます。ユネスコの4つの学び方はそれぞれが関連しあい、有機的に結びつきながら、一人の「人間」としての「育ちと学び」を深めていく視点です。これで全てを満足させる訳ではありませんが、少なくとも、何かに偏ってしまうことは問題です。

例えば家庭で「やり方を学ぶ」こと、わかりやすい例で言えば、テストで良い点数を取ること、受験に成功するということでしょうか。このことのみを重視し、評価してしまうと、子どもに「学び」の本質を見失わせてしまいます。

このような傾向に陥りがちな家庭や社会に対して、学校は、きちんと「学び」に対する視点と姿勢、もっといえば「学び」の本質を求め、実践する場でなければなりません。以前も書きましたが、今回の教育改革では、就学前から小・中・高等学校までの一貫した「学びの地図」を示したわけです。その地図を視点に持ちながら、「先生」自身の子どもの「学び」に対する考え方、価値観などを振り返り、さらに何が大切で、どのように実践し続けていくかが、「先生」に求められる資質・能力であると考えます。

今回ご紹介したい「対談」があります。それは、近代日本の文芸評論の確立者である小林秀雄(1902-1983)と日本を代表する天才数学者である岡潔(1901-1978)の対談で、『人間の建設』(新潮文庫)として出版されています。これは言うなれば文系的学問の代表・小林秀雄と理系的学問の代表・岡潔の対談ですから、とても面白いです。その中で二人が「教育」について語り合っているところがあります。その中で小林秀雄が「いまは学問をすきになるような教育をしていませんね。だから、学問が好きという意味が全然わかっていないのじゃないか」というのです。それを受けて岡潔が「学問を好むという意味が、いまの(中略)先生方にわからないのですね。好きになるように教えなくてはいけないといっても、どういうことかわからないのですね」と答えるのです。とても厳しいですが、問題の本質を明確に指摘していると思います。そして私のような職業(教員の養成)の者にとっては、とても耳が痛いと同時に、大事なご指摘をいただいていると思うのです。

この対談は、昭和40年に行われ、私が生まれる前のことです。ではこの二人が課題としていることは、現代ではすでに解決され、「学問が好きになるような教育」が展開されているでしょうか?残念ながらそうではありません。なぜならば現代においても「好きになるように教えなくてはいけない」ことは、教員の資質・能力として深刻な課題とされているからです。

そして岡は、対談の中で「いまの人間には学問をする力も否定はしていますが、このまんがをサブテキストにするとわかりよいのかなとは考えています」と、これまで以上にまんがを活用していく考えを語った。

◇講座や学習会に

同まんが本を発刊してからというもの、全国の至る場所でまんがを使った学習会や聞法会を開催している話を耳にする。つまり、現代人のニーズに合った「これなら読んでみようかな」と思える本として、同まんが本が多くの人々に受け入れられていることに間違いはないだろう。

さらに、宗祖のご生涯を知るきっかけに留まらず、原典資料集や語句マメ知識なども多いことから、より深く真宗の教えを学ぶテキストとしても好評を得ている。

皆さんも是非、まんがを使った講座や学習会などを開いてみては。

今月お勧めの書籍紹介

『人間からの解放』
武田 定光著
因速寺出版
3644・0986)

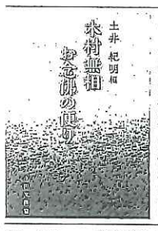
因速寺出版から、著者の講演録の第3弾が発刊。

感動こそが、人間という虚無を解放すると語る著者の思いが詰まった講演録。

なお、第1回と第2回の講演録も好評頒布中。

182頁・463円(税別)・因速寺出版(03・

『木村無相 お念佛の便り』
土井 紀明編
永田文昌堂
無相師の33回忌に寄せて、著者と同師が交わした仏法の便りをまとめ、収録したもの。師が受け止められたお念仏の信心を味わえる一冊。



219頁・2000円(税別)・永田文昌堂(075・371・6651)

『常照我』
石橋 義秀著
文栄堂書店

副題は、「法話・随想集」。本書は、2013年に出版した『仏教と文学』の「新装版」。法話・随想等を大幅に追加・増補した一冊。

167頁・2000円(税別)・文栄堂(075・231・4712)